

ミレニアム開発目標 (MDGs) と PHJ

MDGs とは…

2000年の国連ミレニアムサミットにおいて採択され、日本を含むすべての国連加盟国が2015年までに世界の貧困問題を解決するために掲げられた各国共通の目標です。

右がミレニアム開発目標の8つのゴールです。PHJはゴール4についてインドネシア、カンボジアで母子健康改善、栄養給食、ゴール5についてインドネシア、カンボジアで母子健康改善、ゴール6についてタイでHIV/AIDS 予防教育活動を行なっています。

ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) を支援して下さっている企業の多くが社会貢献の対象をMDGs 関連活動にすることが増えてきました。支援者のニーズに応えるべく PHJ は MDGs を推進する

STAND UP - TAKE ACTION キャンペーン (一人ひとりがたちあがることでMDGsの達成と貧困をなくしたいという意志を世界のリーダーに示すものです) に参加しています。

MDGs の 8 つのゴール

ゴール1: 極度の貧困と飢餓の撲滅

ゴール2: 初等教育の完全普及の達成

ゴール3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上

ゴール4: 乳幼児死亡率の削減

ゴール5: 妊産婦の健康状態の改善

ゴール6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

ゴール7: 環境の持続可能性確保

ゴール8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

巻頭言

かつて私は嫌いな人に出会ったことはありません



PHJ理事
五月女光弘

外務省初代 NGO 担当大使
元駐ザンビア・駐マラウイ大使

この度、PHJ 理事に就任いたしました五月女でございます。日本の代表的な NGO として輝かしい実績を有する PHJ に参加させていただくことはまことに光栄です。ここにご挨拶を兼ねて私の好きな言葉を紹介させていただきたいと思います。

さて、現代人が避けて通れないストレスはなぜ起こるのでしょうか。万病の元といわれているストレスは仕事が忙しいから感じるものなのでしょうか。どうも違うようです。

アメリカにデール・カーネギーと云う教育学者がいました。彼はこう言っています。「多くの人々はストレスは仕事や勉強の疲れから起こるものと信じているがそうではない。…嫌いな人、憎しみを感じる人をつくることで、それを常に意識することになり、結局はその人に支配され相手は苦しまず自分だけが苦しむことになるのである。」

現代社会で好き嫌いが起こることは当たり前で

あるが、嫌いな人を作らない、どんな人であれその人の良いところを認めてあげて好きになるように努力することが結局は相手にとっても自分にとってもプラスになり、結果としてストレスのない快適な環境を作り出すことができるのです。

以前、映画評論家の淀川長治さんは89歳で亡くなられるまで、半世紀以上に亘り映画の紹介を続けられたが、どのような映画でも(たとえそれが駄作であったとしても)愛情を持って批評し、一つでも二つでも良いところを見つけてあげようと努めたそうです。

淀川さんがよく色紙に書いた言葉があります。「かつて私は嫌いな人に出会ったことはありません。」なんと幸せな人生だったことでしょうか。

世界では依然として人が憎しみ合い、国と国が争う。何時になったら終わるのでしょうか。科学技術の発展の世紀といわれ戦争の世紀ともいわれた20世紀が終わり10年経ちました。21世紀は人々や国々がお互いに助け合う「相互扶助の世紀」にならないのでしょうか。人々の多くは自分が訪問した国が好きになると云います。親しい友人が出来れば尚更のことです。「かつて私は嫌いな国に出会ったことはありません。」といきたいものです。

● FY2010報告およびFY2011計画 ●

2010 決算および 2011 予算

(単位: 円)

科 目	2010 決算	2011 予算
I. 収入の部		
1. 現金寄付	78,342,446	74,420,000
法人	57,155,331	58,120,000
個人	8,291,220	8,500,000
パートナー	2,427,000	2,300,000
一時寄付	10,468,895	5,500,000
2. 商品寄付	3,136,448	15,000,000
3. 公的補助金	7,909,151	14,650,000
4. 預金利息	130,407	
当期収入(現金)	86,382,004	89,070,000
当期収入(商品)	3,136,448	15,000,000
当期収入合計(A)	89,518,452	104,070,000
前期繰越(現金)	74,231,842	47,309,208
(商品)	0	
収入合計(B)	163,750,294	151,379,208
II. 支出の部		
1. 事業費	92,366,109 (79.3%)	81,510,000 (78.4%)
現金	86,811,366	66,510,000
為替換算差	2,418,295	
商品	3,136,448	15,000,000
2. 募金活動費	15,396,605 (13.2%)	14,500,000 (13.9%)
人件費	8,590,000	7,500,000
経費	6,806,605	7,000,000
3. 管理費	8,678,372 (7.5%)	8,000,000 (7.7%)
人件費	2,160,000	2,000,000
経費	6,518,372	6,000,000
支出合計(C)	116,441,086 (100%)	104,010,000 (100%)
現金	113,304,638	89,010,000
商品	3,136,448	15,000,000
III. 次期繰越(B-C)		
1. 現金	47,309,208	47,369,208
2. 商品(在庫)	0	0

2010 事業費内訳 (現金+商品)

単位: 円

支援事業	現金支援	商品支援	支援合計
タイ	31,369,472	3,080,000	34,449,472
インドネシア	31,930,049		31,930,049
カンボジア	25,930,140	56,448	25,986,588
計	89,229,661	3,136,448	92,366,109

監査報告書

ピープルズ・ホープ・ジャパン

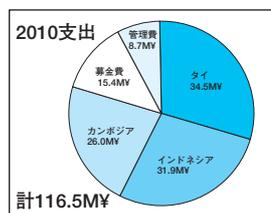
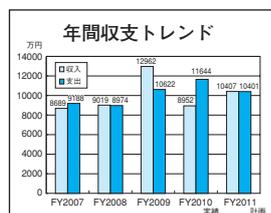
理事長 甲谷 勝人 殿

私はピープルズ・ホープ・ジャパンの2010年度の事業報告書および決算書を監査した結果、いずれも適正妥当なるものと認めます。

2010年7月21日 監事 吉村 文吾

2010 年度 活動報告

1. 会計報告



2. 支援活動報告

タイ支援 (総事業費 3445 万円)

① HIV/ エイズ予防教育 (一部ベトナムでの活動を含む)

2009 年度同様の活動方法で、チェンマイ県のパヤップ大学、チェンマイ大学を中心に、ピア教育を実施する一方、その教育対象範囲を低年齢層へ拡大しています。同じ教育活動方式を、ベトナムのホーチミン薬科大学でも 4 回に分け実施し、プログラムを終了させました。

②子宮頸がん予防教育

チェンマイ県メリン、メタン地区にて、2007 年より 3 年計画で進めており、順調に第 3 年度をむかえています。プログラム開始前は細胞検査受診率が 10% でしたが、2010 年 4 月時点で 58% まで上昇させ、目標であった検査率 50% 以上という数値を達成しました。

③ HOPE パートナー教育

1998 年以来継続しているプログラムで、個人のみならず、企業のサポートも得て、特に教育面での充実を図り、PHJ の長期プログラムとして継続しています。現在は 69 名の患者を 67 名の支援者が支えています。

④小児先天性心臓病手術

今年度も昨年に引き続き企業からの支援で 10 人の子どもの心臓病手術を支援し、命を救いました。また、担当の看護師の研修、移動検診活動も同時に実施しました。

インドネシア支援 (総事業費 3193 万円)

①口腔衛生予防教育

1998 年から 2003 年まで外務省 NGO 補助金事業により、東バリ地区園児・小学校児童を対象とした口腔衛生教育事業は、現地にしっかり定着しています。PHJ は 2004 年以降、本事業に従事する歯科専門家の技術レベルを維持向上させるための技術セミナーを毎年定期開催しています。2010 年はインドネシア大学などの専門家による「小児歯科」矯正スキルアップワークショップを開催、50 人余の参加で成果を挙げました。

②バンタン州地域保健医療システム強化事業

西ジャワのバンタン州セラン県で、MDGs 目標である安全な出産と子供の健康な発育を目指して、診療所を中心とした地域医療連携システム強化事業を継続実施しています。村に滞在する助産師に対する大学病院での研修を実施し、活動拠点となる母子保健センターの建設支援も 3 棟になりました。栄養改善活動では、栄養不良児の低減達成のために、栄養カウンセリング・地元食材使用のメニュー開発・調理教室開催とあわせて、保護者に対する食育活動に力を入れています。また国立栄養教育センターで助産師、医療従事者に対する栄養治療研修を実施しました。

③放射線・超音波画像診断技術教育

PHJ は 2000 年から、バリ州東部の医療拠点であるギアーニア病院に対して、各種画像診断装置を寄贈し、日本から画像診断技師を派遣するなどの支援を継続実施しています。2010 年度は、前年度から実施している検査技師・医師の個別評価に基づく画像診断技術の到達度評価を取り入れ、派遣技師が評価に基づき指導実施しました。

④きれいな水は笑顔と健康の源事業

バンタン州で実施している母子健康事業地域は、上水道がないために生活水を河川・貯水池・浅井戸等に頼っています。医療施設用の安全な水確保のために、環境に優しいソーラーパネルと高効率ポンプを利用した深井戸ならびに手掘り管井戸を 4 つの母子保健センターに設置し、給水を開始しました。

⑤鳥インフルエンザ感染予防事業

東バリ地区の県立病院・診療所の医師・医療従事者と地域住民を対象にした予防事業を実施しました。医療関係者に理解度テストを実施し、その結果を基にインドネシア教育局と協力して「予防」を重点に置いた活動を行うなど、「県と一体になった体制整備」を進め、特にヘルスボランティアと小学生、村人への予防啓蒙教育に力を入れました。

カンボジア支援(母子保健プログラム)(総事業費 2599万円)

①母子保健 助産師トレーニング

2007年度よりブレイベン州のブレイベン保健行政区で、地域の母子保健の鍵を握る保健センター助産師が、適切な助産サービスに必要な技能を修得することを目標に地元の州病院産婦人科で実践的トレーニングを実施してきました。今年度は、ニャックルアン保健行政区で6名の保健センター助産師を対象にトレーニングを実施しました。

支援活動の
写真



ミニバスを使った子宮頸がん検査(タイ)



トレーニングセンターでの研修(タイ)



助産所と深井戸の建設(インドネシア)



妊産婦健診(カンボジア)

②母子保健改善プロジェクト

2008年度終了した「保健センター機能強化プロジェクト」の実績や「助産師トレーニング」の実績を活かし、コンポントム州内でよりニーズの高い農村部での事業を2008年1月より開始しました。農村部の保健センターが適切な母子保健サービスが提供できるようになることを目指し、現在までの取り組みで、保健センターの母子保健サービスが向上し、妊産婦健診数や助産数も増えるなど成果ができました。

2011年度 事業計画

1. タイ支援(総事業費 3155万円)

① HIV/エイズ予防教育

2010年度同様の活動方法で、その教育対象範囲を低年齢層へ拡大するとともに、チェンマイ県のパヤップ大学、チェンマイ大学以外の大学に拡大させ、ピア教育を実施します。学生自らの提案でプログラムを推進できるような体制を作っていきます。

②子宮頸がん予防教育(乳がん教育を含む)

2007年より3年計画で進めているプログラムは今年10月で一段落し、引き続き別の地区で、乳がんも追加した3年間のプログラムを計画中です。4月に寄贈いただいたミニバスを検診車として有効に活用していきます。

③ HOPE パートナー教育

1998年以来継続しているプログラムで、個人のみならず、企業のサポートも得て、教育面での充実を図り、PHJの長期プログラムとして継続していきます。

④小児先天性心臓病手術

今年度も昨年に引き続き武蔵野市あるいは企業からの支援のもと、子ども達の心臓病手術支援をおこないます。まだ手術待ち患者リストには約250名の名前があります。

2. インドネシア支援(総事業費 2011万円)

①バンタン州地域保健医療システム強化事業

西ジャワのバンタン州セララン県で、MDGs目標でもある安全な出産と子供の健康な発育を目指し、村レベルの診療所を中心とした地域医療連携システム強化事業を引き続き実施します。継続的な教育を受けた助産師が最大限の医療サービスを提供できる診療所(Poskesdes)の建設支援と、妊産婦・女性への保健啓蒙教育を継続実施します。「栄養改善活動」では、栄養給食センターを建設して食育に重点を置いた啓蒙教育と地元食材を活用したクッキング教室を本格展開すると共に、食材確保のため実験的な菜園開発にも着手します。

②水事業

母子健康プログラムの事業実施地には上水道設備はなく、生活水に使用される井戸水や雨水の水質はよくありません。診療所での安全な水確保のために、昨年度の掘削経験を活かした事業を引き続き実施する計画です。

③感染症予防事業

2008年度からバリ州での鳥インフルエンザ感染予防啓蒙教育事業を実施し体制の整備にも成果を挙げました。当地ではデング熱等の感染症発生も多く、特に狂犬病の発生率が高く州保健局から狂犬病ワクチン不足への支援要請もあり、PHJこれに応える感染症の予防体制整備を支援します。

④その他事業

イ. 画像診断技術支援

インドネシア・ギアニア病院の医師・技師の画像診断技術を、日本から派遣する技師によりブラッシュアップする事業を継続実施します。今年度は教育対象者を増加、かつ教育日数も増やします。

ロ. 口腔衛生予防教育支援

今年度も東バリ地区の口腔衛生予防教育専門家を対象にした小規模歯科技術教育セミナーを開催します。

3. カンボジア支援(母子保健改善プログラム)(総事業費 2985万円)

①助産師トレーニング

2007年度よりブレイベン州で、地域の母子保健の鍵を握る保健センター助産師が、適切な助産サービスに必要な技能を修得することを目標に実践的トレーニングを実施しています。昨年度までに22名の助産師のトレーニングを修了し、技能向上はもちろん、助産数も増加するなど成果を上げ、州保健局からも高く評価されています。今年度は、あと2名の助産師を対象にトレーニングを計画しています。

②母子保健改善プロジェクト

この事業は、2007年末に終了した「保健センター機能強化プロジェクト」の経験を活かし、2008年1月に新規事業として立ち上げられました。今年度は、事業最終年となり、事業目標の達成と事業終了時評価に注力する予定です。

第15回理事会、第13回総会

8月19日(木)東京千代田区にある如水会館で第15回理事会が開催され、2010年度の事業報告・決算報告・2011年度の事業計画・予算、および役員一部改選等が討議され、承認されました。議案は引き続き開催された第13回総会に付議され異議なく承認可決されました。

理事会、総会にはタイ所長ジラナンさん、インドネシア所長伊藤さん、カンボジア所長中田さんも出席し、現地の報告を行いました。



ピープルズ・ホープ・ジャパン役員 (敬称略 50音順)

理事長	甲谷 勝人	日本ヒューレット・パカード(株)元社長
副理事長	田中 滋	慶応義塾大学 経営大学院 教授
副理事長	小田 晋吾	日本ヒューレット・パカード(株)元社長
理事	後藤 幸子	武蔵野市民
〃	五月女 光弘	外務省初代NGO担当大使、元駐ザンビア、駐マラウイ大使
〃	庄田 隆	日本製薬団体連合会会長、第一三共(株)代表取締役会長
〃	清家 篤	慶応義塾 塾長
〃	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座 教授
〃	西澤 寛俊	全日本病院協会会長、西岡病院理事長
〃	藤森 義明	日本ゼネラル・エレクトリック(株)代表取締役社長
〃	松本 謙一	海外医療機器技術協力会会長、サクラグローバルホールディング(株)会長
〃	溝口 文雄	横河電機(株)社友
〃	木村 敏雄	ピープルズ・ホープ・ジャパン代表
監事	植野 道雄	みずほコーポレート銀行元専務取締役

カンボジアの村と「衛生」

村の生活改善で「衛生」は大切なテーマです。衛生的な環境や生活は、健康維持や病気の予防に不可欠なものだからです。

カンボジアの農村では、衛生観念があまり普及していません。村に行くと、子供たちが井戸の水を汲んでそのまま飲んでいる光景によく出くわします。トイレがなくても、藪の陰で用を済ませます。排泄物が水源を汚染することもあります。村人はそんなことを知りません。高床式の家の周囲には多くの家畜が飼われており、家の周辺は糞



ですぐに汚れます。村人は昔ながらの生活を送っているだけなのですが、村の人口が増え、家畜などの飼育が盛んになると、環境への負荷も大きくなります。

PHJ カンボジア事務所では、

衛生に対する意識を高めるために村人が参加するキャンペーンやトイレの建設を支援しています。キャンペーンでは、村の清掃、手洗い、煮沸した水を飲もう、などをテーマに活動を行いました。村人たちは積極的に活動に参加し、衛生について学びました。「衛生という言葉聞いたことはあったが、意味は知らなかった」と言う村人もいましたが、衛生的な生活が健康のために必要だということを知って、参加者たちは非常に喜んでいました。

衛生的な生活を実践するために、トイレの建設支援も行いました。一村につき15軒の世帯を選んで、PHJはトイレ建設の資材を提供し、建設は村人たちが自分で行いました。現在、モニタリングを行っていますが、皆きれいにトイレを利用しています。トイレのある生活が当たり前になることが村の衛生推進の第一歩だと考えています。

カンボジア事務所 中田

インドネシア 離島での建設支援うら話

PHJは2004年から地域医療システム強化事業をバンタン州セラン県ティルタヤサ自治区14村で行っています。そのうちワルガサラ村は人口1,800人で、トゥンダ島という離島にあります。トゥンダ島は、小型漁船で本土から2～3時間かかります。昼間は電気がなく、夜は自家発電に頼っています。その為、予防接種などのワクチンを保管することができず、患者搬送にも漁船を使用



離島への足の漁船

します。海上が荒れ出航不可な時は患者搬送も、食料確保も困難となります。携帯電話の電波受信が悪く、本土との連絡も大変です。このような状況から、今までフルに活動を実施することができませんでした。

そのワルガサラ村で、2010年度本格的な活動を開始しました。100%自宅出産という現状を改善するための「助産室」、栄養教育活動拠点としての「保健・保育センター」建設を支援したのです。

今までとは異なる経験でした。例えば、建設資材運搬時、重みで船底が沈み、海底のゴミがモー

ターに絡み沖でしばしばエンジンが停止したり、海が荒れ船が前後左右45度近く揺れ、海に投げ出されそうになり、海水をかぶりビッチョリになり、また引き潮で入港できず、日の暮れた暗闇の海原で不安な気持ちで1時間近く救援を待つ、といったようなことです。また島には車両がないため、港から建設現場まで資材を気温40度の中、人力車で運ばなければならず、半日かかりでした。

大変なことばかりではなく、運が良いと、海上でイルカの群と遭遇することもあり、1日の疲れを癒してくれたりもします。今後はこの施設をフル活用できるよう、活動を続けていきます。

インドネシア事務所 伊藤



建設資材を人力車で運搬



助産室内部

タイ小児先天性心臓病プログラム

PHJは1998年以来本年6月まで、タイ北部で先天性心臓病プログラムを実施し、累計261名の心臓手術に成功しています。プログラムの目的は手術を行うことのみではなく、遠隔地の子供が心臓病検査を受けることで小児死亡率を減少させることです。小児先天性心臓病による死亡率を下げる方法は早期発見、早期治療です。



PHJはチェンマイ大学病院と提携して2007年からはセントラル硝子社からのご寄付で年間10名ずつの支援をいただき、



本年度も継続いただいています。また先天性心臓病専門医や看護師も研修を受け技術と知識を高め、手術後の患者のケア

についても研修を受けることができました。

ピサナ ワユエク(9才)

ピサナの家族は41才の父親、46才の母親、22才の長女、19才の長男ほか7人の学校に通う兄弟姉妹がいます。



農業で年収約2万5千バーツ(約75000円)を得ています。ピサナは2008年12月、6才の時に手術を受けました。母親は「娘は生まれた時から心臓疾患があり、毎月病院で薬をもらっていました。チェンマイ大学病院で心臓病手術をうければ娘は元気になると医師から言われました。でも貧しく遠い病院へ行き手術を受ける状況ではありませんでした。日本の企業とPHJのおかげで娘は手術を受け元気になりました。心から感謝しております」と述べています。

タイ事務所所長 ジラナン

タイ障がい児支援募金へのご協力ありがとうございました

2009年10月、PHJはタイ・チェンマイ県にある障がい児専門の研究・医療機関「ラジヤナガリンドラ子供発達支援センター」(RICD)が行っている障がい児のサポートに協力するため「タイ障がい児支援募金」を開始しました。多くの方のご支援を頂き当初の目標を達成しましたので、この募金は2010年9月に終了しました。



RICDは脳性まひ、自閉症、ダウン症などの障がいを持つ子供の早期発見とリハビリ、教育に独自の遊具をトレーニングキットとして開発しトータル支援プログラムを実施しています。PHJではこのプログラムを地域の病院、診療所など広いエリアへ定着させるため、トレーニングキット(3,000円でレンタル用小キット1セット、5,000円×10口で病院用大キット1セット)の支援を募集しました。

2010年8月までに62名の個人および団体から

寄付をいただき、大キット8セット、小キット70セットをRICD経由でチェンマイ県



の10の郡にある病院、保健ステーション、児童診療所に寄贈しました。各キットには寄贈者のお名前を表示いたしました。

またRICD、チェンマイ県保健局、PHJタイ事務所は2010年5月31日から6月4日までトレーニングキットを配布した施設の保健スタッフ122名を対象に、このキットの効率的な利用方法の研修を実施しました。今後キットの利用についてRICDでは定期的にこれらの施設を調査してゆきます。



タイ北部の障がいを持つ子供たちに暖かいご支援をいただき感謝いたします。

感謝のリスト ピープルズ・ホープ・ジャパン (2009年9月15日現在)

*ご協力頂いている法人・団体会員(敬称略、50音順)

愛光プラスチック加工所	国立循環器病センター	東海ゴム工業	フルタカ電気
アイ・ダブリュ・シー	コメト電機	東海ゴム タイランド	プロネクサス
秋山錠剤	サクラグローバルホールディング	東海チャートプロダクツ	ベネフィット・ワン
上尾中央医科グループ	佐々総合病院	東京医科歯科大学歯学部	ボム&メルシエ
あさの	サザン・リージョン病院	東京エレクトロデバイス	ホーユー
旭化成ファーマ	佐藤製作所	東京ガス	ボシロムジャパン
旭化成クラレメディカル	佐藤製業	東京計装	松井証券
アサヒビール	佐藤薬品工業	東京電機産業	松田計装工業
アシスト	サノフィ・アベンティス	東京電力	丸石製業
味の素	サムソン	東芝 GE タービン・コンポーネンツ	丸島製作所
アジレント・テクノロジー	沢井製業	東芝 GE タービン・サービス	丸新プロテック
アジレント・テクノロジー労働組	産経新聞厚生事業団	東芝メディカルシステムズ	マルホ
あすか製業	三晃電気	東薬薬品工業	三笠製業
アステラス製業	三信電気	東邦ホールディングス	みずほ銀行
アストラゼネカ	三電興業	東陽工業	三菱東京 UFB 銀行
AZE	参天製業	東レ	三井住友
アツデン	三和化学研究所	トーアエイコー	南九州洋電機
アトム・メディカル・インターナショナル	サンスター	トクホン	嶺南第一病院
アナログ・デバイス	GE キャピタル	戸田中央医科グループ	ミミ・ソー ニューヨーク
尼崎中央病院	GE コンシューマープロダクツジャパン	富山化学工業	武蔵野市
天野エンザイム	GE ヘルスケア・ジャパン	島田薬品	武蔵野陽和会病院
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル	GE リアルエステート	中嶋病院	村井
アラクス	ジェリング・ブラウ	ナカタニ	村田製作所
アルフレッド ダンヒル	ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン	ナカノブー建設	牟礼精密
一誠堂書店	塩野義製業	ナップ	名港海運
イトウ製業	シスコシステムズ	成田コスモポリタンロータリークラブ	明治製業
イノメディックス	シスメックス	西岡病院	明治電機工業
インターネットイニシアティブ	澁谷工業	西川計測	明治安田生命保険
イビデン	島津インターナショナル	日医工	メリーチョコレートカムパニー
岩塚製業	島津製作所	日揮	持田製業
永生病院	清水建設	日本製業	モメンティブ(クオーツ&セラミックス)
ユー・アンド・デイ	ジャガー・ルクルト	ニッセン・ジーイー・クレジット	モメンティブ(シリコーン)
ユーザイ	商船三井	日短マネーマーケッツ	モンテグラバ
エース総合リース	正田醤油	日東ベスト	モンテローザ
AIG エジソン生命保険	松竹	ニテック	モンブラン
エイ・コレクション	昭和アステック	ニプロ	八神製作所
エスエス製業	ジョンソン エンド ジョンソン	ニプロファーマ	八洲貿易
エッグ トウ コミュニケーションズ	新川電機	日本イーライリリー	山崎製パン
江戸川病院	新進	日本化薬	山武
NTT ファイナンス	すかいらーく	日本経済団体連合会	ヤマトプロテック
エプレン	菅沼製作所	日本軽金属	ヤマト無線
エム・アイ・ピー	杉田製線	日本ケミファ	ユニチャーム
エレクタ	住友電気工業	日本 GE	郵船航空サービス
エンドレスハウザー ジャパン	住友電装	日本システム技術	祐徳薬品工業
オー・ティー・エス技術サービス	スリーエム ヘルスケア	日本新薬	養命酒製造
オイス工業	聖マリアナ医科大学	日本生命保険	横河グループ福祉センター
大塚製業	ゼオンメディカル	日本製業	横河サーテック
大林組	セガサミーホールディングス	日本製業団体連合会	横河シカデン
大豆生田金属	石心会	日本電信電話	横河商事
岡崎製作所	ゼブラ	日本トランスシテイ	横河ソリューションズ
岡本工作機械	ゼリア新薬工業	日本ヒューレット・パッカード	横河デジタルコンピュータ
沖電気工業「愛の募金」	ゼレモアつくば	日本ヒューレット・パッカード労働組	横河デジタルコンピュータ労働組合
オグラ宝石精機工業	千寿製業	日本ペーパードライイング	横河電機
織田病院	セントジュードメディカル	日本メジフィジックス	横河電機診療センター
小野薬品工業	セントラル硝子	日本メトロニック	横河電機労働組合
オフイーネ パネライ	全日空	ネットマークス	横河電子機器
海外医療機器技術協力会	全日本病院協会	ノバルティス ファーマ	横河電子機器労働組合
外務省	全業工業	ノルディスクファーマ	横河電陽
花王	ソルキア	バイエル薬品	横河東亜工業
カガミクリスタル	第一三共	パナソニック	横河タイランド
科研製業	第一薬品工業	浜製作所	横河バイオニクス
カシオ計算機	タイコヘルスケアジャパン	バラマウントベッド	横河フィールドエンジニアリングサービス
カルテイエ	大正製業	ヴァンクリーフ&アーベル	横河フィールドエンジニアリングサービス労働組合
かわでん	大成建設	ヴァンシロン・コンスタンタン	横河ブリッジホールディングス
北里大学医学部	大日本住友製業	バンダイ	横河マニファクチャリング
キョーマン	大鵬薬品工業	バンドー化学	横河メータ&インストルメンツ
キッセイ薬品工業	太陽計測	万有製業	横河レンタ・リース
キップ	大洋薬品工業	ピアジェ	ライオン
紀文食品	大和証券エスエムビーシー	東天満クリニック	ランゲ・アンド・ゾーネ
キャンソ	大和証券グループ	東山工業	リシュモン ジャパン
京西テクノス	武田薬品工業	久光製業	菱洋エレクトロ
杏林製業	竹中工務店	菱野金属商事	リンガーハット
協和測機	田辺三菱製業	日立製作所	ロイヤルホールディングス
共和電業	ダンヒル	日立メテコ	ロート製業
協和発酵キリン	中外製業	日野病院	ロジフレックス
グラクソ・スミスクライン	中外製業労働組合	ファイザー	ロシュ・ダイアグノスティクス
クラシエ製業	地球市民財団	フリップス エレクトロニクス ジャパン	ワイ・エフ・リーシング
クリナップ	チャーター・ファースト HD (AIG)	フダ電子	ワイズ
クレハ	チャリティ・プラットホーム	フジクラ	ワイ・ディー・シー
クロエ	ツムラ	藤子・F・不二雄プロ	ワイ・ディー・シー労働組合
グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン	帝国通信工業	富士通	わかもと製業
廣貫堂	テイクメディックス	富士ゼロックス	ワコーエンジニアリング
甲府紙器	テラル	富士電機ホールディングス	
港北出版印刷	テルモ	富士レボ	
向洋電機	電通	扶桑薬品工業	
興和	電通国際情報サービス	二葉栄養専門学校	
国際チャート	東亜電気工業	プリストル・マイヤーズ	

合計 343法人・団体

会員のひろば

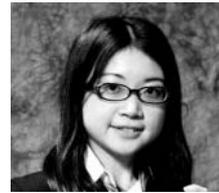
「インターンシップを終えて」 細川 美香

私は、インターンとして約3ヶ月PHJの仕事に関わらせて頂きました。国際協力の分野には兼ねてから興味があり、特に発展途上国の健康・栄養状況、また教育の発展に協力したいという思いがありました。大学では政治学科に所属し、今年3月に卒業しました。今後はフランスの大学院で国際関係を学ぶことを予定していますが、PHJでのインターンシップを通して更に問題意識が高まりました。

PHJでは、リサーチを始め、資料作成や翻訳など様々な実務に関わる上で多くのことを学ばせて頂きました。国際協力を行う場合、現地の人々の要望に対してどのように具体的な援助を実現出来るかという点はとても重要なことだと思いますが、PHJは現地のニーズに十分に答えている支援団体だと強く感じました。このように各海外事務所を通じて現地の人々の援助に直接関わっていることが、一つの大きな魅力ではないかと思っています。また、

多くの個人・法人会員の方々から頂いているサポートが、PHJが様々な活動を行う上で大きな活力となっているのだと感じました。この3ヶ月間でNPO・NGOに関するリサーチや国別プロフィール作りの作成、イベントのサポートなど実務的な仕事に多く関わらせて頂き、とても良い経験をさせて頂きました。その活動の中で実際に海外事務所の職員の方々とは交流する機会も与えられ、現地の活動を肌で感じることも出来ました。普段支援の実態を知るといのはなかなか難しいのですが、熱心なスタッフの方々の支援活動に実際に関わらせて頂き、援助というものがより身近に感じられるようになりました。私は今回のインターンシップという活動を通じてこのような貴重な機会が与えられたことをとても嬉しく思っています。

インターンシップでお世話になりました事務所のスタッフの皆様や海外事務所の職員の方々には大変感謝しております。



GEの社内セミナーでPHJの活動紹介

8月20日(金)に日本GE株式会社のオフィスでGEウイメンズネットワーク主導のセミナーが開催され、PHJの活動を紹介しました。ランチタイムを挟んだ時間帯でしたが、社員の方々とともに藤森義明社長も出席されました。メインテーマである「カンボジアの出産事情」について写真を使ってじっくりと説明するとともに、インドネシア、タイの活動についても紹介しました。グローバル企業ともあって参加者のなかには学生のころ途上国支援の仕事を目指していたという方もおり、セミナー終了後も幾人かの社員の方々が残って熱心に所長へ質問をされていました。



——— ホープジャパンニュース 53号訂正 ———

ご寄贈いただいたミニバスをタイの子宮頸がん教育活動に投入(1ページ)誤:ポデイの色は子宮頸がん予防のリボンの色、ピンクです。正:ポデイの色はもうひとつの婦人科がん、乳がん予防のリボンの色、ピンクです。

… メールニュースについてのお願い …

PHJでは季刊誌 ホープジャパンニュースに加え毎月の活動報告やお知らせをタイムリーに行うために登録していただいた方にメールニュースを配信しています。現在会員の方も会員でない方もe-mail addressを登録してメールニュースをご覧になってください。登録先はinfo@ph-japan.orgです。なお皆様から頂いた個人情報は適切に管理しピープルズ・ホープ・ジャパンの活動のみに使わせていただきます。

チャリティカレンダーの絵が集まりました!

今年のPHJのチャリティカレンダーはアジアのおとぎ話をテーマにした絵を集めた「アジアのおはなしカレンダー」。今回はインドネシア、カンボジア、タイに加えて、日本の子供たちも参加していただきました。協力いただいたのは武蔵野赤十字病院内にある「武蔵野市立境南小学校いとすぎ学級」と、障がい児のデイサービスを提供している武蔵野市の「社会福祉法人おぞら会あすは」の子供たちです。すでに各国から絵が集まっておりこれから絵を選択して作成を開始します。今回は絵だけでなく各国のおとぎ話を通して、その国の文化をより深く味わうことができるでしょう。

《カレンダーのお申し込みは同封のチラシ、あるいはPHJのホームページから。10月31日締切》



日本「花さかじいさん」
武蔵野市立境南小学校いとすぎ学級(武蔵野赤十字病院院内)児童より